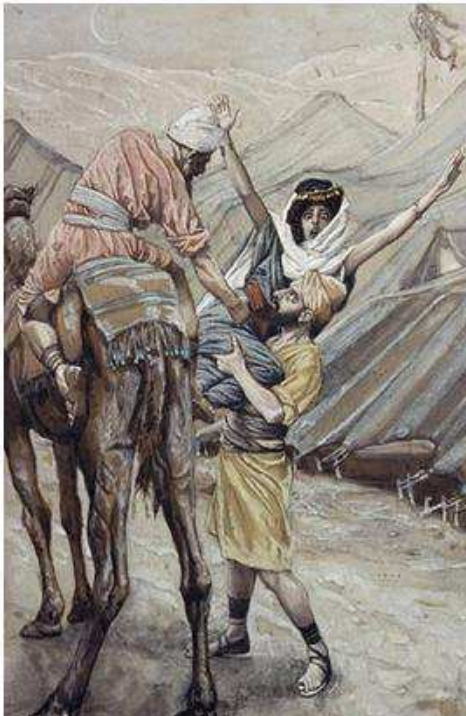


ヤコブにはレアの7番目の子として一人の娘ディナが与えられました。ところがディナに悲劇的な、残虐な事件が起きるのです。聖書では最初にレイプ（強姦）された女性として登場します。

ヤコブ一族が兄エサウとの穏やかな再会を果たし、和解して、無事にカナン地方のシケムの町に着いて宿営しました。その町にハモルの息子シケムが住んでいました。ヤコブはシケムたちから土地の一部を買い取って、祭壇を築き、落ち着いた生活を始めた矢先のことです。



拉致されるディナ James Tissot (1836-1902)

一人娘のディナが土地の娘たちに会いに出かけました。男兄弟の中で育ったディナにとって、男は慣れていたし、彼女自身も男っぽい部分があったかもしれませんが、女友だちがほしかったでしょう。その時、シケムに出会います。彼は「彼女を見かけて捕らえ、共に寝て辱めた。シケムはヤコブの娘ディナに心を奪われ、この若い娘を愛し、言い寄った。」とあります。そしてそのままディナを家に置いておきました。他の言葉でいえば、拉致、強姦、監禁したのです。シケムの父は、シケムと共に丁重に結婚申込みにやってきましたが、ヤコブは困惑してしまいます。

ところが兄たちは、嘆き、激しく憤って絶対にこれを認めることはできませんでした。シケムは、ディナへの愛情があったので、相互の姻戚関係、自由な土地の利用、要求通りの結納金など、相手方に有利な条件を申し出ます。それに対して兄たちは「割礼（陰茎包皮を環状に切り取る）を受けていない男には妹を妻として与えない。あなたがた一族が皆割礼を受けるなら同意してもよいが」と一応譲歩の姿勢を見せます。

シケムたちはそれを聞いて割礼を受けることにしました。そして、割礼を受けることによって、ヤコブ一族の「家畜の群れも財産も動物もみな、我々のものになるではないか」と目論み、結局は物欲絡みで、割礼を町の人々に勧めました。それは、兄たちの思うつぼでした。

割礼を受け、三日目に男たちがまだ傷の痛み苦しんでいた時、ディナの兄、シメオンとレビが剣を取って町に入り、男たちをことごとく殺したのです。そしてシケムの家からディナを連れ出すことができました。さらに町中を略奪しました。シケムは虐殺の場となりました。

ヤコブはシメオンとレビの行動を非難しますが、もはやこの土地に住むことができなくなりました。このような事態を招いた原因は、カナンの神々を偶像として身に着けたこと、彼らの衣類、耳飾りなどを身に着けたこと、すなわち、自分たちの神を見失ったことから生じたこととヤコブは痛感しました。それら一切を捨て、地に埋めて、ベテルの方へ逃げて行かざるを得ませんでした。

レイプはなぜ起こるのでしょうか。日本には「従軍慰安婦」問題があり、多くのアジアの女性がレイプされ、謝罪も解決もされていません。また、「割礼」はユダヤ人にとって、神との神聖な契約の目に見える形です。シメオンやレビが報復手段として「割礼」を利用したということは恥ずべきことでしょう。そして凌辱の報復は虐殺、そのまた報復、という恐怖の復讐劇の連鎖になっていきます。最初の被害者はディナですが、彼女の言葉は記されていません。結婚したという記録もないし、おそらく妊娠、出産ということはあると思うのです。ディナはこの悲しみ、屈辱をただ耐えたのでしょうか。女性へのこのような暴力は絶対にあってはなりません。